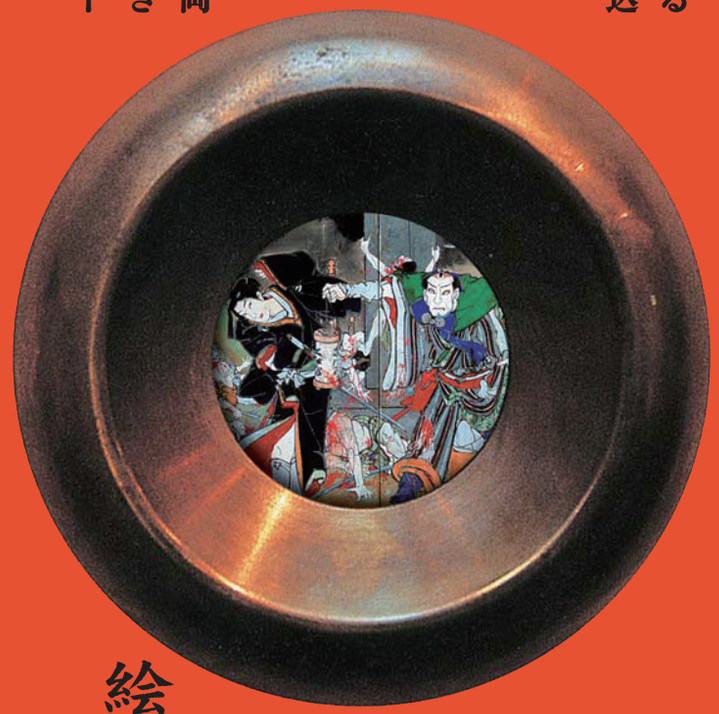
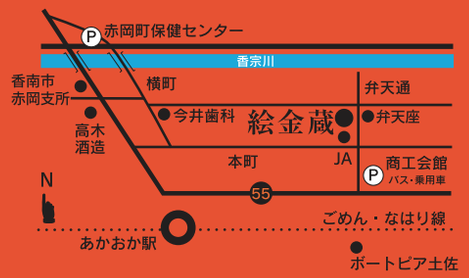
絵金蔵（えきんぐら）

絵師金蔵、略して絵金。
もとは土佐藩家老桐間家の御用を勤める狩野派の絵師でしたが、贋作事件に巻き込まれ、城下追放となります。

野に下った絵金はおばを頼りにこの赤岡の町に定住し、酒蔵をアトリエに絵を描きました。「絵金蔵」では町内に残された二十三枚の屏風絵を収蔵、保存しています。



絵金蔵（えきんぐら）
高知県・赤岡町



【交通機関】

車で　高知市はりまや橋から約40分
高知龍馬空港から約10分
高知自動車道南国ICより約30分

ＪＲで　高知駅からあかおか駅まで約40分
あかおか駅より徒歩10分

【絵金蔵】

開館時間　午前９時～午後５時（入館は午後４時半まで）
観覧料　大人 520 円（470 円）、高校生 300 円（250 円）
小・中学生150 円（100 円）※（　）内は、15 名以上の団体料金
休館日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌火曜日）
12月29日～31日、１月１日～３日

＊絵金蔵の展示作品について
絵金蔵が収蔵する芝居絵屏風は全て年に一度、夏の祭礼に飾るために描かれたものです。この伝統を守り、作品の劣化を防ぐため、「蔵の穴」に展示する２点以外は全て複製展示となっております。

【サロン】

営業時間　午前９時～午後５時
お休み　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌火曜日）
12月29日～31日、１月１日～３日

恐ろしくて美しい

絵金蔵（えきんぐら）

展示室一【闇と絵金】
展示室二【蔵の穴】
展示室三【絵金百話】
映像ホール
収蔵庫

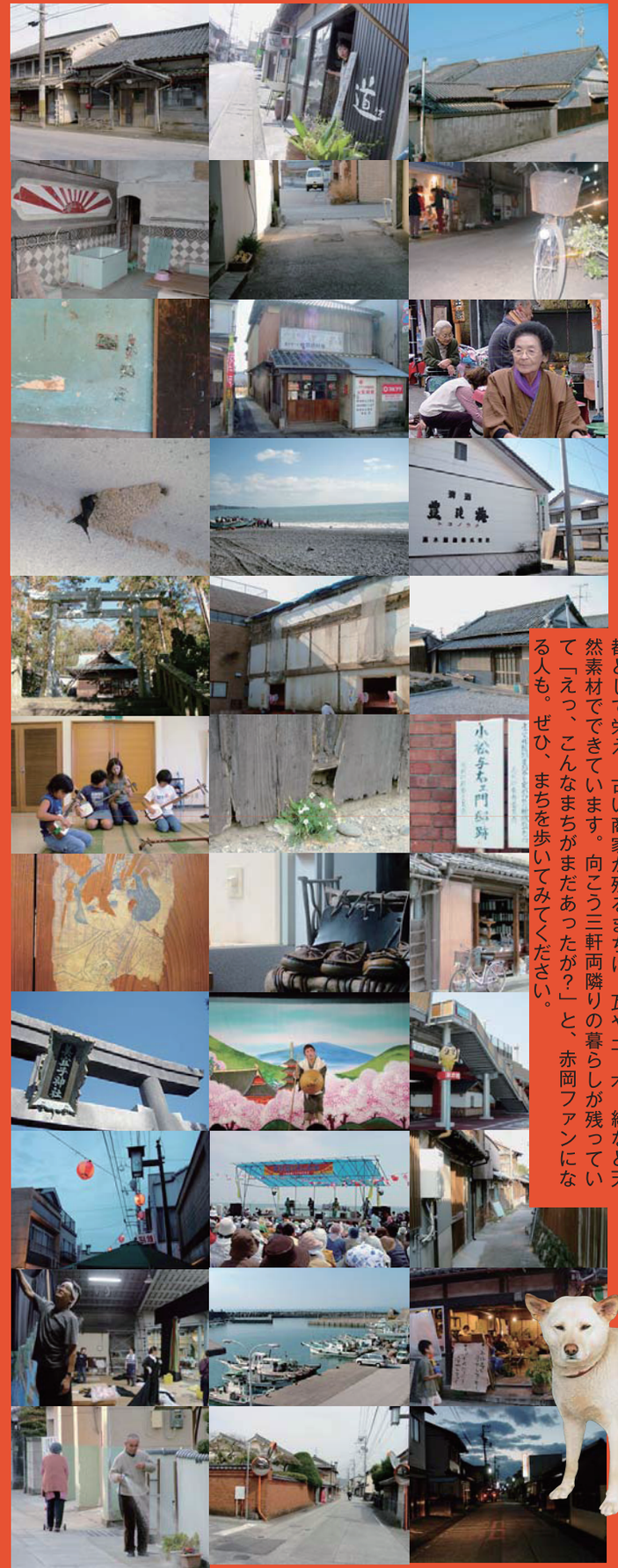
〒781-5310 高知県香南市赤岡町538
電話・Fax ０８８７－５７－７１１７
URL　https://www.ekingura.com

記載されている内容については予告なく変更する場合がございます。

まち歩きの楽しみ付き

歩く町、赤岡。

平成18年3月の町村合併までは、全国の市町村の中で一番小さい町だった旧赤岡町は、大杯で豪快に酒を飲み干す「どろめ祭り」や「絵金祭り」で全国に知られています。かつて香南の商都として栄え、古い商家が残るまちは、瓦や土、木、紙など天然素材でできています。向こう三軒両隣りの暮らしが残っていて「えっ、こんなまちがまだあったが？」と、赤岡ファンになる人も。ぜひ、まちを歩いてみてください。



闇夜に開く極彩色の芝居絵
闇と絵金

【展示室・一】

絵金が極彩色の絵の具と圧倒的な筆の勢いで描いたのは六尺四方、二曲一隻の屏風絵。

その修羅を描いた芝居絵の世界は、和ろうそくの灯に照らされ、揺らめき、動き出さんばかりの迫力で見る者の心をわしづかみにしてしまいます。絵金の屏風絵は、闇の中にあってこそ、圧倒的な存在感と異彩を放つと言われています。

絵金蔵では祭りの夜に習って、展示室を薄暗くし、屏風絵をご覧いただけるようにしました。聞こえてくるのは赤岡海岸の波の音です。

年に一度の文化を守るための364日
蔵の穴

【展示室・二】

まちに残っている二十三枚の屏風絵は、今まで、町内各区で保管されていました。

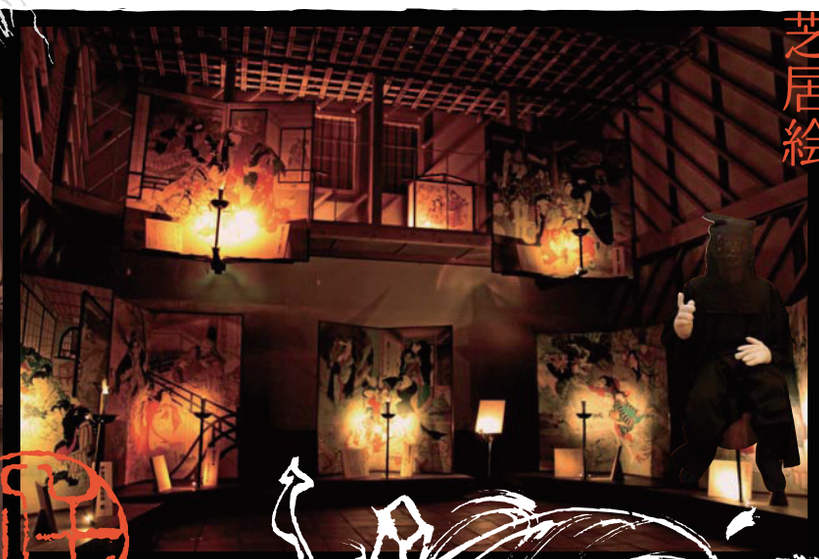
しかし、年に一度とは言え、商家の軒先に長年晒されてきた絵には傷みが見られるようになってきています。そこで、この赤岡の文化と屏風絵を子々孫々に残していくための収蔵庫として作られたのが「絵金蔵」です。でも、やっぱり本物もご覧いただきたい。壁に穴を空けて覗き見できるようにしました。常時二枚ずつの公開で、定期的に替えていきます。

絵金の生涯の謎を紐解く資料室
絵金百話

【展示室・三】

絵金の謎に包まれた生涯を数々のエピソードとともにたどっていく資料室は、江戸時代末期、絵金が十年間に渡る流浪の末、この町に辿り着き酒蔵をアトリエに暮らした頃の赤岡の町を再現しています。

俗悪にして絢爛と言われる極彩色の屏風絵とはまったく違った白描画の魅力、残された品々をひも解きながら、六尺の巨漢で大酒飲みだったという絵金の、風貌が浮かび上がって来ます。



◆それは闇の中の出来事なり
贋作事件

類い稀なる画才から十八才にして江戸で狩野派に学び、二十一才で土佐藩家老桐間家の御用絵師となった絵金、（当時は林洞意）は贋作事件に巻き込まれます。古物商中村屋の依頼により、狩野探幽の模写を描いた絵金は、偽絵を描いたと弾劾され、狩野派破門、御用絵師解任、とが人として高知城下追放となり、転落の途をたどることになります。

それは絵金の才能に対するねたみか、陰謀か。すべて闇の中の出来事として、歴史の彼方に葬られています。

金蔵、美高、洞意
敬載、徳固、観湖
柳栄、友竹、友竹
雀七、雀翁、

◆一年の眠りから覚めるとき
絵金祭り

屏風絵は現在、年に一度、赤岡町須留田（するだ-中野ふりがな）八幡宮の神祭と夏祭りの宵にだけ蔵の中から目覚め、商店街の軒先にその姿を表します。

この屏風絵は元々、まちの旦那衆が須留田八幡宮の大祭に奉納するために絵金に描かせたもので、宵宮にあたる七月十四日に商家の軒先に広げられるようになったのは江戸時代末期からのことです。また、七月第三週の土曜と日曜に開催される絵金祭りは、商店街の発展を願って昭和五十二年から始りました。

赤岡町須留田八幡宮神祭　7月14日、15日
絵金祭り　7月第3土・日曜日